

経営協議会（平成 19 年度第 4 回）議事要旨

- 1 . 日 時 平成 20 年 3 月 26 日（水）15:00～16:50
- 2 . 場 所 ホテル日航奈良 4F「羽衣の間」
- 3 . 出席者 安田学長（議長）
千原理事、小笠原理事、五十嵐理事、村井理事、
井上委員、中村委員、森下委員
- 欠席者 佐々木委員、CASSIM 委員
- 陪席者 佐藤教育研究支援部長、宗近経営企画部長、長川企画総務課長、中條学生課長、奥田研究協力課長、大野学術情報課長、小林人事課長、河野会計課長、向井施設課長、辰巳企画総務課課長補佐、松山企画総務課企画・法規係長、小野企画総務課企画・法規係主任、ダイキン工業株式会社中川人事企画担当部長

（配付資料一覧）

- 1 . 経営協議会（平成 19 年度第 3 回）議事要旨（案）
- 2 . 平成 20 年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学年度計画（案）
- 3 . 平成 20 年度予算について
 - 3 - 1 . 平成 20 年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算編成方針について（案）
 - 3 - 2 . 平成 20 年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算配分について（案）
- 4 . 学内諸規程等の改正等について
 - 4 - 1 . 育児短時間勤務制度の導入に伴う職員退職手当規程の一部改正について
 - 4 - 2 . 人事院勧告に伴う有期契約職員給与規程等の一部改正について
 - 4 - 3 . 特任教員等の構成員の移行に伴う外国人教師給与規程等の廃止について
- 5 . 平成 18 事業年度における剰余金の繰越について
- 6 . 平成 20 年度入学者選抜試験実施状況について
- 7 . 平成 19 年度外部資金の受入れについて（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 26 日）
- 8 . 平成 20 年度外部資金の受入れについて（平成 20 年 4 月 1 日～）
- 9 . 平成 19 年度ライセンス契約の概要について
- 10 . 平成 20 年度理事・監事・経営協議会委員について

議事に先立ち、事務局から配付資料の確認が行われた。

4 . 議 事

（前回議事要旨の確認）

前回（平成 19 年度第 3 回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

(審議事項)

(1) 平成 20 年度年度計画について

小笠原理事から、平成 20 年度年度計画等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

なお、今後、修正がある場合には、学長一任のもとで進められることになった。

(2) 平成 20 年度予算について

五十嵐理事から、平成 20 年度予算について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(3) 学内諸規程等の改正について

五十嵐理事から、育児短時間勤務制度等の導入に伴う職員の育児休業及び介護休業等に関する規程の一部改正、人事院勧告に伴う有期契約職員給与規程等の一部改正及び特任教員等の構成員の移行に伴う諸規程の廃止について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

(1) 平成 18 事業年度における剰余金の繰越について

五十嵐理事から、平成 18 事業年度における剰余金の繰越について報告が行われた。

(2) 平成 20 年度入学者選抜試験実施状況について

小笠原理事から、平成 20 年度入学者選抜試験実施状況及び各研究科の博士後期課程入(進)学者数及び推移(平成 17~20 年度)について報告が行われた。

(3) 平成 19 年度外部資金の受入れについて

千原理事から、平成 19 年度分の共同研究、受託研究及び寄付金の受入れについて報告が行われた。

(4) 平成 20 年度外部資金の受入れについて

千原理事から、平成 20 年度当初分の共同研究、受託研究及び寄付金の受入れについて報告が行われた。

(5) 平成 19 年度ライセンス契約の概要について

千原理事から、平成 19 年度ライセンス契約の概要について報告が行われた。

(6) 平成 20 年度理事・監事・経営協議会委員について

議長から、平成 20 年度理事・監事・経営協議会委員について報告が行われた。

(委員からの主な意見は、次のとおり)

・国策としての今後の大学院の方向性について、常に気になっている。奈良先端大は、大学院教育をリードして欲しいという願望を強く持っている。

- ・奈良先端大は、基礎研究よりもむしろ応用研究に重点を置くとか、あるいは、企業との連携で必要とする技術力の人材養成に重点を置いた方がよいのではないか。奈良先端大でないと学べないものは何かというスペシャリティーを求めることが、国際化にも通じていくと思う。
- ・社会において国際的に活躍する人材とは、技術者でありながら、英会話能力が堪能で、ディベート能力を持ち、日本の歴史文化を語ることができ、外国人と対等に交渉できる資質や能力を備えた人である。奈良先端大では、このような人材を養成するために、独創性や意外性を強く打ち出してはどうか。
- ・大学院を持たない4年制大学の中で非常に優秀な学生をいかに奈良先端大に入学させるか、また開発途上国の優秀な留学生を、授業料免除などの経済的支援でいかにして獲得するかという方策を検討してはどうか。これらの方策は社会貢献にもつながるので、企業と連携しながら行うことを念頭に置いて検討しても良いと思う。
- ・従来の共同研究や受託研究から一歩進んで、いわゆる事業の連携のような恰好につなげていくと、産学連携の本当の意味が見いだせると思う。そのようなプログラム作りが必要ではないか。

(その他)

議長より、次回の経営協議会は、平成20年6月25日(水)に開催予定であることが述べられた。

以上